

4 基本理念

子どもは社会の希望であり、未来をつくる存在です。子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは、一人ひとりの子どもや保護者の幸せにつながることであり、豊かな地域社会づくりにつながっていきます。

「子ども・子育て支援」については、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すことを基本に、子どもの視点に立ち、子どもの生存と発達が保障されるよう、良質かつ適切な内容及び水準のものとする必要があります。

本計画は、全ての子どもが自らの人権を大切にすることを知るとともに、一人ひとりの子どもの人格や個性が尊重され、豊かな人間性を育む子育て環境づくりを推進していくことを基本理念とします。

5 基本的視点

◇ 子ども一人ひとりの人権を尊重する視点

子どもは親との関係を通して、人への基本的な信頼関係や自尊感情を育み、それを基盤として社会の中で成長していくことができます。

一方、以前は、ごく自然に機能していた地域の互助機能が弱体化し、子どもは社会の子であるとの認識が乏しくなっています。家庭や社会が子どもを権利の主体としてとらえ、子どもが「社会の子」として成長していくために、「すべての子どもの人権の尊重」を推進します。

◇ 全ての子どもや子育て家庭を対象とする視点

障害、疾病、虐待、貧困、家族の状況その他の事情により社会的な支援の必要性が高い子どもやその家族を含め、全ての子どもや子育て家庭を対象とします。

◇ 社会全体で子育てを支援していく視点

子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは、子どもや保護者の幸せにつながることはもとより、将来の社会の担い手の育成の基礎となる重要なものであり、社会の全ての構成員が、子ども・子育て支援の重要性に対する関心や理解を深め、全ての子どもが健やかに成長できる社会を実現していかなければならないものと考えます。

◇ 子どもの健やかな発達を保障する視点

乳幼児期が生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期であることを踏まえた上で、子どもの育ちについて十分理解し、一人ひとりの発達に応じた適切な保護者の関わりや質の高い教育・保育や子育て支援の安定的な提供を行うことを目指します。

◇ 親育ちの過程を支援する視点

子どもの育ちや子育てをめぐる状況が厳しい中で、負担や不安、孤立感を抱えながら子育てを行っている人々が増加しています。本来、子育てとは、日々成長する子どもの姿に感動しながら、親もまた親として成長することに大きな喜びや生き甲斐をもたらす営みです。親が親として、その責任を果たしながらも、一方で子育てを享受することができるよう、社会全体で、親の育ちの過程を支援します。

◇ ワークライフバランスを実現する視点

家事や育児、地域との関わりなどは、子育て世帯を含め人々の暮らしに欠かせないものであり、仕事と生活が充実してこそ豊かさが実感できます。このため、ワークライフバランスの実現に向けた取組を推進します。

◇ 妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の視点

希望する人が、結婚し子どもを生み育てることができる社会を実現するため、結婚・妊娠・出産から育児の連続した支援を行います。